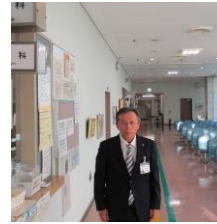


令和8年度 部局マニフェスト

～私たちの組織使命と目標～

部局名	市民病院
役職	副院長
氏名	松田 克彦
連絡先	0595-41-0065



業績目標の標語(指導者評価)
 目標としていた達成水準を上回る成果を出した(100%超)
 目標としていた達成水準に到達した(100%)
 わずかに目標の達成水準に達しなかった(90%以上100%未満)
 目標の達成水準には届かなかった(60%以上90%未満)
 目標の達成水準までは遠い結果となった(60%未満)
 目標達成のための取り組みが見られなかった

業績目標	表題	現状や課題	達成水準 (どこまでできれば達成したといえるか)	達成状況 (自己評価)	理由
◎部局目標1	関連の施策・基本事業No. 1-3②	<p>〈これまでの経緯〉 常勤医師数は、毎年度、大学の人事異動等によって、当院の意思に関係なく変動する。令和7年度には循環器内科医が年度途中に不在となったが、医局派遣とは別に呼吸器内科医1名を確保できた。 令和8年4月1日時点の常勤医師数は29名で、このうち会計年度任用職員が6名となっている。 初期臨床研修医は、令和6年度(基幹型研修病院初年度)は3名、令和7年度は4名、令和8年度は2名の採用となっている。</p> <p>〈目標が達成された姿(理想)〉 医師数と提供する診療科が増え、市民が必要とする医療を提供出来ている。これにより市民の地域外の病院への流出が減少している。</p> <p>〈現状分析〉 三重大学からの内科系常勤医師の派遣が長年にわたって実現していない。各大学は臨床、教育、研究等を行うために必要な医師数に余裕がなく、派遣機能が低下している。このため、大学からの派遣人数を増やしてもらうことが極めて難しくなっている。</p> <p>〈課題〉 いずれの診療科も医師の増員が望まれるが、急性期病院として、とくに循環器内科の常勤医確保が必要である。また、会計年度任用職員は入院患者の主治医になれないため、正規職員の内科系常勤医を増やす必要がある。</p>	<p>〈目標数値〉 常勤医師1名以上確保 非常勤医師2名以上確保</p> <p>〈達成された状態〉 医療提供体制が充実し、幅広く質の高い医療が提供できる。</p> <p>〈手段・工程〉 ・三重大学、関西医科大学、滋賀医科大学の各医局への定期訪問を継続するとともに、医局に属していない医師に対して個別の勧誘を行う。 ・医師の働き方改革に適切に対応するとともに、医師の負担軽減を図る。 ・初期臨床研修医及び指導医の確保に努める。</p>		
診療能力の向上と良質な医療の提供	医師の確保				

◎部局目標2	関連の施策・基本事業No 1-3②	<p>〈これまでの経緯〉 健診センターにおける人間ドックや健診の利用者数は新型コロナウイルス感染症をきっかけに減少していたが、令和6年度になってコロナ前の利用者数を僅かながら上回った。</p> <p>〈目標が達成された姿(理想)〉 市民が健診の大切さを認識し、必要な健診を受診することにより、がんや生活習慣病などの疾病の早期発見・早期治療が行われ、健康寿命が伸びている。</p> <p>〈現状分析〉 令和7年度の間人ドック等の利用者数は9,118人で、令和6年度を261人上回ったものの、伊賀市におけるがん検診受診率は県内自治体の中で下位に位置している。</p> <p>〈課題〉 高齢化の進展等により増加しているがんや認知症などを含めて健診メニューを充実させ、効果的に周知を図ることで受診する市民を増やすことが必要である。</p>	<p>〈目標数値〉 検診等利用者数 9,400人 (前年度比3%増)</p> <p>〈達成された状態〉 多くの市民が健診により疾病を未然に防いだり、早期発見・早期治療を行い健康寿命を伸ばしている。</p> <p>〈手段・工程〉 ・健康推進課と連携して市民公開講座等を計画し、健診の大切さを広報する。 ・実施している医療機関が少ないDWIBS検診等の有用性をアピールし受診者を増やす。 ・より快適に健診を受けられるよう健診センターの効率性とホスピタリティを向上させる。</p>		
疾病の早期発見・早期治療	検診内容の充実と受診者の増加				